

令和7年度北上市市政座談会  
～きたかみまちづくりトーク「WAになって話そう」～in 飯豊

## 報告書

日 時 令和7年7月29日（火） 午後6時から7時まで

場 所 飯豊地区交流センター

参加者 地域参加者：57名

市出席者：13名 ※他事務局7名

グループトークテーマ

- A. 地域での子育てをするため、あなたはどんな人とつながっていきたいですか。
  - B. あなたが年をとったら、どんな暮らしをするのが理想ですか。
  - C. あなたが10年後も残していきたい、飯豊の景観は何ですか。
  - D. あなたは自治会というコミュニティに求められるものは何だと思いますか。
- 

### A-1グループ

- ・地域と子どもたちとのコミュニケーションについて、声かけが防犯上問題視されることもあり、抵抗感が強まっている、挨拶をしても子どもたちが挨拶を返してくれない等の意見が多くあった。一方で、様々な影響で挨拶ができない子もいるため、多様な人を受け入れる地域社会が大切であるという意見も多くあった。
- ・子育て世代などの地域行事への参加が少なく、参加を促すための工夫として、親子で参加できる内容に見直す、バーベキューなど世代関係なく楽しめるイベント行う、夏休みを利用した子ども向けのイベントの企画、子ども食堂等、世代を超えた交流のアイデアが出された。
- ・若い世代や子育て世代の意見をもっと聞き、参加しやすいしくみ作りをしていきたいという感想があった。

### A-2グループ

- ・地域での子育てについて、子どもたちに海外とのつながりを持つ機会を増やしたい、郷土芸能を通じたつながりを持ってほしい、地域活動を通じて生まれる交流がある、等の意見があった。母親だけではなく、父親同士がつながることのできるコミュニティがあれば良いという意見も出た。
- ・近年では様々な事情で、子育て世代の地域活動への参加が少ないことが課題として挙げられた。また、子どもたちの部活動やPTAなどの保護者会の現状も、部活に入らない、保護者の集まりをやらないという選択肢も増えて、変わってきているという話が出た。
- ・親同士や学校と保護者の関係も希薄になっているという話があった。地域活動に参加することで交流が生まれるので、若い世代への声掛けを積極的に行っていきたいという意見が出された。

## B-1グループ

- ・年をとってからの理想の暮らしについて、畑仕事や趣味を楽しみたい、健康で長生きしたい、旅行を楽しみたい、家族と一緒にいたい、できるだけ家で自由に過ごせるように健康でいたい等、多様な意見が出た。
- ・身体が自由が利かなくなってしまう時の介護の体制や移動手段などについての不安が多数挙げられた。少子化や人手不足の中、施設の順番待ちや訪問介護が受けられないことへの不安がある、免許返納後の移動手段として、バスやタクシーだけでなく、新しい交通手段を考えてほしいなどの意見が出された。
- ・市出席者から北上市の介護支援に関する施策や支援体制の説明があった。市では介護保険事業計画を策定しており、様々な支援を行っていることが伝えられ、市の窓口で相談できることに安心したという声があった。

## B-2グループ

- ・年をとってからの理想の暮らしについて、家族や地域とのつながりを大切にしたい、健康でいることが大切、家族と一緒に暮らしたい、日常のコミュニケーションを重要視している、趣味や好きなことを楽しみたい等の意見があった。
- ・理想とする暮らしも大切だが、悩みがある場合、どこに相談していいかわからないという意見があり、相談窓口等の周知を徹底してほしいという声があった。また、これからの暮らしのことだけではなく、田畑の跡継ぎや、自宅の整理などについても、今後考えていきたいという意見があった。
- ・飯豊地区の地域計画推進委員からは、皆がいつまでも元気であることと、元気でなくなった時にどうサポートしていくか、どこに相談すれば良いかという点が重要だと実感しており、一人で悩まないよう、地域の方々が集まる場を作っているという話があった。

## C-1グループ

- ・飯豊地区の景観について、ミズバショウの群生地を守りたい、成田一里塚を地域の誇りとして残したい、伊勢神社の桜の美しさがずっと続いてほしい、長年整備活動を行っている飯豊森を守りたいなど、愛着ある景観が多数挙げられた。
- ・きたかみ景観資産の取り組みについて、パネル展の取組が参考になる、地図や一覧が分かりにくいので大きなパネルで表示してほしい、掲示板などで活動の情報発信をしてほしい、より詳細な位置図や冊子をより多くの方に配ると良いのではないかなど、もっと周知に力を入れてほしい等の意見があった。
- ・伝統行事や文化も地域の財産であり、景観と同じく守り継いでいきたいという意見や、飯豊地区内の他地区の活動や景観について知る機会が少ないので、交流や情報提供の場が欲しいという感想もあった。

## C-2グループ

- ・10年後も残したい景観について、飯豊森や川沿いの自然景観、有南神社から見える夏油三山などの景観の良いところや思い出のエピソードが具体的に挙げられた。景観を残していくために、地域活動への参加者を増やしたい、趣を大切にしつつ参道を整備したいという意見もあった。
- ・景観を維持する難しさや土地利用に関する課題が挙げられた。個人所有の山の手入れについて、勝手に整備できない難しさがあるという悩みについて、「持ち主が手入れの意向を示して相談してもらえれば、担当者が間に入り、伐採や運搬の届け出など協力できる」という市出席者からの解決策の提案もあった。
- ・景観の維持管理に関する地域活動の重要性、公園の草刈りやトイレ掃除などの日常的な管理に苦労している現状や、地域だけで維持していくことの難しさなどの話も出た。

## D-1グループ

- ・自治会の現状について、役員のなり手不足、高齢化、若い世代の参加の少なさが共通の課題である、新しく来た人が地域に馴染む機会が少ない、従来の交流が敬遠されがちである、コミュニティの希薄化が進んでいる、自治会を抜けるケースや地域で顔の分からない人が増えているなど、様々な課題が挙げられた。
- ・若い世代の参加の促進について、新しい住民が来たら歓迎会を開く、子どもたちを巻き込んだ行事を増やす、短時間でも参加しやすいものから関わってもらう、交流を深められる新しい形のイベントを行うなどのアイデアが出された。
- ・参加者が楽しかったと思えることが大切であり、「やらされ感」ではなく、「やってみたら楽しかった」という経験を増やすことが、参加率向上のヒントになるのではないかという意見が複数挙がった。

## D-2グループ

- ・自治会の現状について、役員のなり手不足による顔ぶれの固定化、高齢化が進み、若い世代が少なくなっている、新しく人が来る一方で毎年自治会を抜ける人がいるなどの話があった。昔の規模で活動を続けるのは難しく、負担を減らしつつ重要な部分は守っていききたいという意見もあった。
  - ・世代ごとに自治会への期待や関わり方が違うので、必要な時に必要なサービスやコミュニケーションが取れるしくみがあれば良いという意見があった。また、自治会が維持できなくなった場合の対応も考えていく必要があるという意見も出た。
  - ・市出席者から、顔の見える関係を作ることが何かあった時の支えにつながり、行政としても自治会をどう支援していくか考えているので、意見を寄せていただきたいという話があった。
-

# グループトークの様子



**飯豊地区の皆さま  
たくさんのご参加ありがとうございました**